

効果的な荷重・歩行練習を支援



育った。現在、約100 進の実績を誇る。脳卒中
人のスタッフが在籍し、入院患者が多くを占める

トスツH.A.L.足置アシスト装置CoCore e.A.D.上肢訓練装置CoCore A.R.2上肢用ロボット型運動訓練装置ReoGoJ.▼步行神経筋電気刺激装置N.F.1.▼可動式免荷装置アンウェイシステム▼ドライブシミュレーター▼MR支援システムリハまる」など多彩

い要望に応える形で、東しく生き抜くことを支える「緩和ケアにおけるリハビリ」にも力を注ぐ。さらに、ACPも積極的に推進し、延命のためののめらなく、患者にとつて最良の選択を一緒に考へることが、「医療者ととしての大切な務め」と力

胆振・日高エリアで初の緩和ケア病棟を開設。苦小牧市だけでも年間1200人以上ががんで亡くなっている。病棟開設を決めてから基準の整備勉強会、多職種チームの結成、国内の視察など、体制を整えるのに約10年かかった。収益を大きく見込める分野ではないも

今年4月には訪問看護

地域完結型医療実践の30年間

「リハ栄養」も積極的に取り入れ、あらゆる支援機能を完備する。

14年には市民からの強い要望に応じ、必要不可欠な「不足を解消するため」に、

「リハ栄養」も積極的に取り入れ、あらゆる支援機能を完備する。

14年には市民からの強い要望に応じ、必要不可欠な「不足を解消するため」に、

切ったといふ。都市部より速いスピードで進行する地方の高齢化に対応するため予防から社会復帰までを一貫して担う「地から見学が相次いだ」といふ。都市部より速いスピードで進行する地方の高齢化に対応するため予防から社会復帰までを一貫して担う「地から見学が相次いだ」といふ。都市部より速いスピードで進行する地方の高齢化に対応するため予防から社会復帰までを一貫して担う「地から見学が相次いだ」といふ。

ことから、開設当初から A/D 訓練に注力し、機能的自立度評価法 (FIM) といった機能評価指標でも、着実に身体機能改善が認められるなど、

指してきた。「見学者が来院するこゝや技術を導入し、在宅復
2000年12月、道内とでスタッフの士気が高 帰率85%を達成。全国平 つなげている。
初の回復期リハビリテ まり、研究熱心な人材が 均78〜79%と比べ、高水 ▼歩行アシストロボツ

著者の橋本理事長

指摘する。

ローカル
ホスピタルの使命
Mission of Local Hospital

「医療は、人々の健康と幸福のために存在し、社会に貢献するものである。しかし、医療は単なる技術的な行為ではなく、人間性に基づいたケアを提供することが求められる。ローカル・ホスピタルは、地域社会と密接な関係を持ち、患者のニーズに応じた柔軟な対応が可能である。この本では、ローカル・ホスピタルの役割と使命について、具体的な事例を交えて論じていく。」

幻冬舎から発刊。46判
208ページ、176
円

は非常に大きく、その意思を受け継ぎ、社会の変革で医療の形が変わり、求められる役割が多様化する中でも、変わらず質の高い医療を提供すること、私たちに課せられた使命だと力強く語る。

歩行パターンを学習させる支援ロボット

幻冬舎から発刊。46判
208ページ、176
0円